

## 萩にあしあと残そうよ

「足早に過ぎた二月でした。」

令和3年(2021)  
3月1日発行  
—第20号—  
発行：大塚好一



1月の誕生日  
を自ら祝う！

### 「日々の暮らし」

会社の業務の都合で、出社日と休業日の入れ替えが生じて連休ができ、久しぶりに塩原へ帰省しました。あまりに急だったので周囲を驚かせましたが、多くの人と会うことができました。ワクチン接種が始まりましたが、生活も仕事もしばらく現状維持となりそうです。そんな中、思い切ってお出かけられて良かったと思います。(一九〜二四日)

萩は比較的温暖ですが、やはり日本海側です。北西方向からの強い季節風が吹き荒れる日が多いです。以前、北欧から訪れた人が、冬空の様子が似ていて親近感がわくという話をしていたそうです。

### 「自由気ままな歌日記」

海水の池の周りで啼き交わす

鶯の声さえ嘆きに聞こゆ

(二月二日)

友の顔次々浮かぶ

コロナ禍の休業続く

長い夕べに

(二月四日)

自己流の 隠し味さえ

ない料理とはいえず

酒を継ぎ足す

(二月一四日)

身軽なり一昨日決めて

今日帰省 千二百キロを

駆け抜けていく

(二月一九日)

二年ぶりに

母がこさえた弁当を

帰省がえりの車中で食べる

(二月二四日)

※新幹線での移動でした。

### 「あしあとノート」

#### ◆楊貴妃伝説の寺・二尊院◆



龍伏山天請寺二尊院  
は真言宗の寺です。

楊貴妃といえれば世界三大美女のひとりといわれる人物。中国唐代、玄宗皇帝の妃でしたが、安祿山の乱の際に殺されたといわれています。ところが、実は生き延びて日本に流れ着いたという伝説があり、その漂着地が長門市油谷の久津海岸といわれています。

二尊院は、楊貴妃の墓と伝えられる五輪塔や、玄宗皇帝から送られたという国重文指定の本尊・二尊仏（釈迦如来像と阿弥陀如来像）がある歴史ロマンスポットです。



中央が楊貴妃の墓と  
伝えられています。

#### ◆本当に「長い」長屋◆

萩城大手門の正面に位置する厚狭（あさ）毛利家萩屋敷の長屋は、桁行五一・四mもある長大な建物です。主屋などは残っていませんが、広大だったことが容易に推測できます。(国指定重要文化財)



安政3年(1856)の建築と記す棟札が残っている点に歴史的価値があります。

#### ◆夏みかんの集荷◆



岸田商会の黄色いトラックが夏みかんを集めて走ります。

恒例の夏みかんの集荷を行いました。柑橘類のしぼり汁（ポン酢）を製造する岸田商会にとって、原料の確保は大変重要な業務です。生産者に

#### ◆皇太子殿下行啓之所◆

萩城跡指月公園内にある展望所。そこは二の丸を囲む石垣の上で、海に面した場所です。大正一五年五月三十日に皇太子殿下（のちの昭和天皇）が行啓され、お休みになった記念碑が建っています。ここからは眼下に美しい水面、先には白砂青松の菊ヶ浜などが眺望できます。殿下が秋吉の滝穴を探勝され、後日「秋芳洞」と命名されたのも、この行啓の時でした。



当時はもっと浜が広く松も多かったことでしょう。

## ◆マラソン大会に参加◆



19kmの部に参加。競わずにマイペースで走りました。

島根県の実郷町で開催された「第一回江の川エンジョイソロマラソン」に参加しました。感染予防対策を図るのはもちろん、スタートも十秒間隔で二人ずつ出ていくというスタイルでした。

美郷町といえば：斎藤茂吉鴨山記念館があることから数回訪れている町です。緩やかに流れる江の川と周囲の景観を楽しみ、茂吉の足跡が刻まれた土地を歩くことができるのは、まさに願ってもない機会となりました。

## ◆花の便りが続々と◆

塩原帰省から戻った翌日、快晴の空の下向かったのは、道の駅萩しーまーとに隣接する親水公園です。河津桜がごろを迎えていました。



萩出身の人が寄贈した河津桜ということです。

この時期の萩は、萩往還梅林園では紅白やしだれの梅、そして笠山椿群生林ではヤブツバキが咲き競い、それぞれまつりも開催されます。昨年はコロナ感染拡大で中止が相次ぎましたが、今年はマスクを着用した人々が各地から足を運んでいるようです。

## 「萩の五十音 その③」

はまき まちや みなとまち  
浜崎は町家つらなる港町



浜崎地区は、城下町の形成にともない、海の玄関口として開かれた港町です。江戸時代には北前船の寄港などで、

明治以降も商業や漁業・水産加工業の隆盛を背景に栄えました。町家や土蔵が軒を連ねる町人地らしい町並みが魅力です。

## 木造の明倫学舎で萩を知る



萩藩校明倫館跡地に、昭和十年に建てられた木造二階建ての旧明倫小学校校舎。現在は「萩・明倫学舎」として、藩校の歴史等を始め、世界遺産・ジオパーク・幕末維新史など、萩を学び知ることができ展示がぎっしりと詰まっています。

## スケッチを元に築造

はきはしやろ  
萩反射炉

反射炉は、鉄製の大型を鋳造するために必要な粘り気のある鉄を作るための溶解炉で

す。佐賀藩が築造した反射炉を視察した際のスケッチを元に、見よう見まねで築いたそう、萩藩が作った反射炉は、残念ながら実用化には至りませんでした。



## 姥倉の運河が守る三角州

江戸期の萩城下町は低湿な三角州のため、常に水害と隣あわせでした。たび重なる惨状を見て一三代藩主毛利敬親が四年の歳月をかけて運河を開削しました。姥倉運河は洪水時は放水路として、平時は船の通路として人々の生活を支えています。



使うほど味わいを増す萩茶碗

茶の湯の世界で「一楽二萩三唐津」と評される萩焼。やわらかで素朴な風合いが特徴で、焼き締めが弱く、貫入という細かなひびを通してお茶などが染みこみ、使うほど表情に深みが増すことから「萩の七化け」と言われ珍重されています。

## 類を見ぬ

えびすがはな どつくあと  
恵美須ヶ鼻のドック跡



恵美須ヶ鼻造船所では、幕末にロシア式とオランダ式の木造洋式軍艦が建造されました。西洋の造船技術を積極的に取り入れようとした萩藩の姿勢が伺えます。異なる技術の造船を同じ場所で行った事例は、他に類を見ないといわれます。